

朝日連峰 大朝日岳山麓

ハチ蜜の森から

No.40



アシナガバチ移住プロジェクト活動開始!

アシナガバチは優秀なイモムシハンターです。駆除するなら、安心・安全野菜作りの強力なサポーターになってもらいませんか! 写真/移設巣箱のキアシナガバチ

ハチ蜜の森

トチやキハダをはじめマンサク、コブシ、カエデ、ヤマザクラ、ドウタン、ウワミズザクラ、ミズキ、クリ、ハクウンボク、ケンポナシ、タラ、コシアブラ、センノキ、ヌルデ、クズ、イタドリ…と、数多くの蜜源植物を抱える森のこと。ハチ蜜の森キャンドルはその森の入口にあります。

編集発行

ハチ蜜の森キャンドル

代表 安藤 竜二

☎990-1573 山形県朝日町立木 825-3

☎・FAX 0237-67-3260

メール mitsurou@alto.ocn.ne.jp

ホームページ mitsurou.com/

発行日 2019年9月28日

腸内細菌と畑とアシナガバチと

グルテンフリーと化学物質にまみれた食べ物から逃れる食生活を続けて3年半。おかげさまで、重症だった花粉症(32年歴)やアレルギー性鼻炎はほぼ治り、辛かった慢性胃炎は一度も再発したことはありません。年に1~2度は必ずひいていた風邪も一度もひいていません。そして、17年間飲み続けたバセドウ病の薬も、先生に内緒ですが、徐々に減薬しながら、ついにこの春にやめてしまいました。まもなく4ヶ月になりますが、バセドウ病特有の動悸も不整脈も、頻脈も、疲労も、手の震えも、眼球異常も起こっていません。それどころか、益々体調は良くなりました。痩せて老け顔になった以外は(笑)100点満点の健康状態です。

さて、あいかわらず全国の養蜂家が農薬被害で苦しんでいます。特にネオニコチノイド系農薬は、浸透性・残効性が強く、農産物に吸わせておいて守るしくみです。いまや野菜は殺虫剤です。ですから、その農産物に花が咲けば蜜や花粉にも農薬が出るのです。近頃も、愛媛県のみかんのハチミツから残留基準値超えの農薬が検出し回収する騒ぎがありました。たとえ成虫が死なない微量であっても、小さな体の次世代の幼虫たちに影響が出て、知らぬ間に蜂が減ってしまうのです。また、この農薬は、神経毒のためミツバチの脳に影響します。働きに出た蜂が戻れなくなるなど「蜂群崩壊症候群」の原因とされ、欧州各国では、すでに使用禁止となっています。

蜂だけでなく、広大な水田に隣接する自宅の周りでは、カブトムシやアゲハ、カマキリなど、昔人気だった虫たちを見かけなくなりました。大好物のイナゴもいません。スズメも激減しました。農薬による身近な自然の環境破壊は本当に深刻です。

このネオニコチノイド農薬を調べて驚いたのは、私たち人間の子供達の発達障害の原因の一つと危惧されていることです。子供だけ

でなく成人のうつ病や癌やアレルギーが激増していることにも影響があるらしいと。

そんなことを知ってから、市販の野菜が怖くなり、4年前から家庭菜園を始めました。収穫した野菜は本当においしいです。もちろん、農薬も化学肥料もいっさい使いません。今年から半分は自然農の非耕起栽培にもチャレンジしています。

とはいえ、まだまだ収穫量は少ないし、本業が忙しく秋野菜は作れませんので、3年前から隣の無農薬有機栽培農家のはしもと農園から定期購入しています。10日に一度千円でたっぷりの野菜が届きます。ご夫婦で真っ黒に日焼けして農作業をしてくれています。手作り味噌も本当においしいです。これは「保存料」や「食品添加物」が入っていないのでありがたいのです。はしもと農園はうちのライフラインです。

私は、腸内細菌を減らす保存料や防腐剤など石油から作られた食品添加物もなるべく摂らないようにしています。3年前に出会った友人が、ひどいアトピー性皮膚炎と肝炎を、食品添加物を摂らないようにして治した話を聞いたからです。加工食品は、必ず原材料名を見ます。すると、ほとんどの食品やお菓子に入っているのが買えません(笑)。妻の素材のみでの料理が一番ありがたいです。

先日、食品添加物評論家の阿部司さんの講演を山形市で拝聴してきました。様々な食品添加物と遺伝子組み換えで作られたブドウ糖加糖液糖やサラダ油などを使って、おいしい清涼飲料水やとんこつスープ、コーヒーフレッシュ、チョコレート、マーガリンなどを作って見せてくれました。

「世界一食品添加物や農薬を食べている日本。私たちが楽に簡単に安く食事できるのは食品添加物のおかげ。しかし、その裏で私たちは何を得て、何を失ってきたのか」と。養豚業者が売れ残りのコンビニ弁当を毎日豚に与えたらチョコレート色の羊水から奇形の子豚が

たくさん生まれた話は衝撃的でした。

アレルギーも癌も二人に一人が発症する時代。スポンサー付きのテレビは早期発見・早期治療を勧めますが、なぜ急激に増えているかという疑問にはけっしてふれません。

私は、ほかに、戦前はなかった牛乳や塩素水道水、精製塩もやめました。水は工場の無塩素水をタンクに汲んで、塩はミネラルが半分入っている昔ながらの天然塩にしました。

「よくそんなストイックな食生活を続けていられるね」と度々言われます。やはり3年半前にインターネットで知り、医者もテレビも奨めないグルテンフリー（小麦絶ち）を始めたのが一番の理由です。私を蝕んでいた様々な症状が劇的に改善しました。

日本で使われている小麦粉のほとんどは輸入品です。収穫時に枯らして容易に収穫するために使う除草剤が残留し、製粉すれば酸化防止剤が入られ、薬品を使って脱色し、輸出する時は品質保持のためにさらにポストハーベスト（収穫後農薬）が入れられます。胚芽を取るので糖質以外栄養もありません。

汚染された小麦により小麦アレルギーが発症し、小麦抗体が消化器官を荒らし、特に腸が荒らされ腸内細菌が減りデトックス（排毒）できなくなると、様々なアレルギーに反応する炎症人間が作られてしまうのです。せめて鼻水や涙でデトックスしようとする体の健全な反応が花粉症だと。花粉症の犯人は花粉ではなかったのです。そして、腸が荒らされると免疫細胞も作れなくなるので体の抵抗力もなくなり風邪や病気に冒されやすくなると…。

4年前、未だ国は治療に活かそうとはしていませんが、私の持病でもあるバセドウ病の本当の原因はヘルペスウイルスだという世界的な発表が鳥取大学の長田佳子教授によりなされました。とすれば、小麦など汚染食品により私の免疫細胞が減られ、おとなしくしていたヘルペスウイルスが優勢となりバセドウ病を引き起こしたということになります。

この小麦アレルギーは、遅発型といって、



はしもと農園のアシナガバチハウス

すぐに体が反応しないので気付かずにいる人が日本には4人に一人いるとされます。私もその一人だったということです。

テニスのノバク・ジョコビッチは、グルテンフリーで喘息を治して世界ランキング王者になり、本を出版し世界中にグルテンフリーを勧めました。私はグルテンフリーをして、医者もテレビも伝えないことにも真実はあることを実感しました。

そして昨年春。はしもと農園の手助けになれるのではと、駆除依頼があったアシナガバチを巣ごと生け捕りして移住させることを成功させました。アシナガバチは、畑の害虫のイモムシ類を狩ってくれるのです。もちろん、アシナガバチを置けば万全というわけではありませんが、手立ての一つとしては大変有効です。

常々私も、益虫のアシナガバチを、なんでみんな簡単に殺虫剤をかけてしまうんだらうと心を痛めていました。アシナガバチは、とても温厚で、巣に近づいたり、ぶつかったり、触ったりしなければ刺さないのです。

そこで私は、このアシナガバチの畑移住を全国に広めることにしました。そうすれば全国の無農薬農家の手助けになり、それが話題となり、益虫復権ができれば、全国のアシナガバチを救うこともできます。さっそく、ブログを作り、畑に移住させる方法の動画を3本作ってYoutubeに投稿し、実地研修会や講演も勢力的にしております。

以上、前置きの長い近況報告失礼しました。

伊丹市昆虫館でアシナガバチ移住の講演会!

アシナガバチを無農薬菜園に移住させる方法の初めての講演を、兵庫県の伊丹市昆虫館さんが叶えて下さいました。24年前に、1.17大震災が縁でつながり、これまでも蜜蝋キャンドル作り体験やミツバチ展、昆虫食展などでコラボしてきました。なにしろ館長の奥山清市氏は近くの山形県河北町出身なのです。

さて、会場に入って驚きました。40人近い方が聞きにきて下さっていたのです。講演は、スライド写真を使って、初めて巣を移住させたきっかけや、はしもと農園に15群移住させた経験談、成果について、お話しさせていただきました。

会場には、蜂を愛していらっしゃる皆さんが多く、共感されてうなずきながら聞いていただき嬉しかったです。また、奥山館長はじめ蜂に精通されている方もいらして、質問の時には、逆に教えてもらう一幕もありました。とても有意義なあなたかな時間を過ごさせていただきました。

ご来場くださった皆様、奥山館長、そしてスタッフの皆様にご心から御礼申し上げます。また、1.17以来何度もお世話になってきた伊丹市の森信子さんには駅からの送迎など、今回もまた大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



講演会のポスター

農文協「現代農業」に拙文

農文協の「季刊地域」の連載は終わりましたが、担当職員の方のご配慮で、アシナガバチ移住のことを「現代農業」の編集部につなげていただきました。嬉しいことに、さっそうく昨年9月に取材にいらして下さいました。しかし、残念なことに天敵ヒメスズメバチの襲撃後で、きちんとした取材にはなりません。ただ、「このような取り組みは聞いたことがないからまた来たい」と言っていただきました。

そして、3月に編集部から「先行して安藤さんの原稿を載せたい」と連絡があり、書かせていただき6月号に掲載していただきました。

その後6月には、また取材にいらして下さいました。来春に掲載なるかもしれません。



小樽キャンドル工房でWS

長年、私のキャンドルの販売をして下さっている憧れの小樽キャンドル工房（小樽市）さんで、体験教室をさせていただきました。

蔦で覆われた古い倉庫を改装した店内には、様々な種類のキャンドルが陳列されていました。特に日本ではとてもめずらしいディッピング機械（ろう浸け）で作られた様々な色のテーパーキャンドルは鮮やかでした。私の作品もきちんと説明入りで展示されていて嬉しかったです。二階は体験スペースとカフェになっていて美味しいコーヒーをいただきました。終始「いいな〜」のつぶやきを繰り返しておりました(笑)



私の映画!? 「森の光」上映会

ハチ蜜の森キャンドル 30 周年に、ご褒美をもらったような出来事がありました。

私の仕事を追った 7 分のショートムービーが昨年 9 月に開かれた山形ビエンナーレで上映されたのです。スクリーンの前では、蜜ろうが毎回灯されました。



撮影は様々なドキュメンタリー映画を撮られている茂木綾子氏。はじめていらして下さったのは真冬の猛吹雪の中。変な表現になりますが、工房での私はまるで職人のように振っていただきました(笑)。養蜂場も森も美しく、そのリアル感に感動しました。タイトルに「森の光」と付けていただいことも嬉しかったです。

ちなみに、タイトルのロゴは、以前芸工大の卒業制作で協力させてもらい現在は人気デザイナーの梅木駿佑さん。森からの光の力を感じるような素敵なデザインでした。

上映会場にも驚きました。山形市の仏壇店「長門屋」さんの古い蔵だったのです。実は、長門屋の笹林さんご家族はお子さんが小さい頃に、度々うちの体験教室に参加下さっていたのです。

なんだかいろんな縁を感じた上映となり、感慨ひとしおでした。

関わってくださった多くの皆様に心から感謝申し上げます。そして、撮影を推薦し進めてくださり、これまでも度々私をビエンナーレに引き込んで下さった芸工大の宮本武典先生。そして職員の伊藤迪子さんにも心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

蜜ろうの残留薬剤検査をしています

近頃、市販の蜜ろう化粧品でかぶれる事故が起きています。それは、採蜜の終わった秋に使うダニ剤の薬「フルバリネート」の残留が原因らしいです。

ハチ蜜の森キャンドルでも、肌が弱い方やアトピーの方に手作りハンドクリーム作りを薦めてきました。30 年蜜ろうと向き合ってきた目で厳選してきましたが、万が一、うちの蜜ろうが原因で悪化することになったら大変申し訳ないことになってしまいます。

そこで、ハンドクリームやお菓子作り用に販売している蜜ろうは、これまで以上に厳選し、さらに毎回、山形県理化学分析センターに依頼して「フルバリネート」の残留検査を通った蜜ろうのみを販売することにしました。

ハチ蜜の森キャンドルの「蜜ろう SS」は、胸を張って安全・安心な蜜ろうです。



検査結果報告書

ご紹介ありがとうございました

■ 高島屋友の会通信

Humming time 9・10月号 (2018)

2 ページにわたりご紹介いただきました。

■ MOE 3月号

くまのプーとハチミツ特集記事でご紹介いただきました。20 年以上前に訪ねたことのある 100 エーカーの森の写真が多数掲載されていて感激しました。



アシナガバチ移住 PJ のブログ公開中!

昨年はグルテンフリーのブログを作りましたが、今年は、アシナガバチ移住を全国の農家の人に知ってもらいたいと思い立ち、またブログを作っていました。マニアックな内容ですが、内容もかなり充実しアクセス数がだんだん増えてきました。

移住活動で気づいたことや失敗談、誰でもできる移住方法、天敵ヒメズメバチ対策、移設巣箱の作り方、Youtube に UP した動画にもリンクさせています。

読み応えがあると思います。ぜひ、ご覧になってください。



「アシナガバチ移住プロジェクト」で検索を!

ショップサイトをリニューアル!

ハチ蜜の森キャンドルのホームページは、20年ほど前、当時ウェブ製作会社をなさっていた熊坂直樹氏が、見本として無料で作ってくださったのが始まりでした。その後は、私が更新をしているため、あかぬけたデザインの中、あかぬけないごちゃごちゃした、ちょっと不思議なサイトになっています(笑)

今回、再度アドバイスをいただき、既存のサイトを使ってショップページを新しい形にいたしました。一眼レフカメラを中古で買い、キャンドルの写真を1本ずつ撮り直し、一ヶ月以上かかりましたが、ついに出来上がらせることができました。

数枚の写真で確認することができ、便利な買い物かごやクレジットカード決済もできるようになりました。ぜひご利用下さい。

熊坂氏には心から感謝いたしております。

蜜ろう利用術⑦

何度も使える「みつろうラップ」



東京都にお住まいの檜原茜さんは、この夏「蜜ろうのことを深く知りたくて」と、ミツバチ観察や蜜源の森歩き、そして蜜ろうについてのレクチャーを個人的に受けにいらして下さいました。

檜原さんは、布に蜜ろうとホホバオイル、天然樹脂を染み込ませた「みつろうラップ」の製作・販売をなさっています。その製作に、うちの安全な残留薬剤検査済み蜜ろうを使っています。

檜原さんは、オーストラリアで生活している時に、海を汚染し魚や鳥たちの餌になってしまうプラスチック問題に心を痛めていました。そんな時に、洗って何度も使えるみつろうラップに出会い、使い捨てしなくてよい心地良さから、なるべくプラスチックを使わない生活を心がけるようになったのだそうです。

機能性も優れています。手の温もりであらゆる形にもフィットするので、使いきれなかった野菜や器のふたとして使えるし、蜜ろうやホホバオイルの抗菌作用が野菜を長持ちさせてくれるとのこと。

みつろうラップという日常の簡単な提案から、プラスチック問題を身近に感じてもらい、使い捨てを減らせればと、活動をさらに広げていきたいとも話されました。

若い頃、森を守りたくて始めた私の蜜ろうで、海を守りたい若い檜原さんがみつろうラップを作られます。なんて素晴らしいことでしょう。

現在ホームページ制作中とのことで、商品や出店情報はInstagramでご確認ください
い→@beesimple836

「ハチのおうち作り」ワークショップ

やってみたいワークショップがありました。それは、触らなければ刺さない蜂たちの産卵場所を作る工作です。それを叶えて下さったのは、いろんな体験を英語で進める英語塾の“でこぼこ英語”さん（山形市）です。

まず、板を速乾木工用ボンドで貼り合わせ、かわいい家型の箱を組み立てました。英語で Bee House という看板も貼り付けました。小さな子供達なのに、みんな上手に作ってくれました。

木箱が硬化する時間を使って、蜂は人にとって益虫なこと、蜂を怖がらなくてもよくなる話を、写真や標本、実際の巣を見せて話しました。

後半では、いよいよ産卵場所になるパイプを箱に詰め込みました。パイプは、ヨシ、イタドリ、笹竹、ストローや透明ホースも使いました。透明なら、産卵後にそっと引き出してみると、どんな風に卵を産んでいるかを観察できるかもしれません。また、様々な穴の大きさのパイプを入れることで、季節ごとに様々な蜂たちも来るようになります。

きっと、ヨシには花粉交配をしてくれるマメコバチ、大きな穴のイタドリにはオオハキリバチ、小さな穴の笹竹にはアブラムシを獲るチビアナバチ、そして看板の奥の屋根裏にはクモを獲るルリジガバチなどが来るかもしれません。とても楽しみです。

触らなければ刺しませんが、ベランダに置いておけば、ガラス越しに安心して餌を運ぶ様子を観察できます。

蜂と見れば、殺虫剤をかけてしまうようになってしまった日本人。離れてしまった人と蜂の距離、そして自然との距離を、このワークショップを通して縮められたらと願っています。

（鳥海イヌワシ未来館通信 連載「ハチ蜜の森から」

2019 春号掲載コラム）



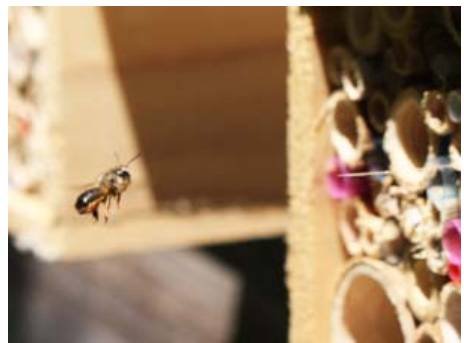
木工用速乾ボンドで家を作って



産卵場所になるパイプを詰め



ハチのおうちの出来上がり



その後、8種類の蜂たちが産卵していきました！

ホットココナツミルク

3年前、小麦をやめたことに続き牛乳や乳製品もなるべく摂らないようにしてきました。

日本人は、乳製品のカゼイン(タンパク質)を分解する酵素をほぼ持っていないので、腸に負担がかかり、小麦と同じリーキーガット(腸もれ)を起こすらしいのです。

私は小麦や食品添加物や農薬野菜をやめて腸のデトックス力を高め、免疫力も高め、重症な花粉症をほぼ直しましたので、腸に悪いものは食べたくないのです。牛乳は、さらにガンや骨粗鬆症や白内障も発症させるとまで言われています。真偽はともかく、牛乳・乳製品の魅力は感じなくなってしまいました。

ただ、寒い冬は、子供の頃から大好きだったハチミツを入れたホットミルクを無性に飲みたくなることがあります。

そんな時は、ココナツミルクをお湯で溶かして飲んでいきます。缶を開けると、体にいいオイルが浮いて固まっています。油っぽくなるので、それは入れないで別に使い、その下のクリーム状の部分をカップに入れます。あとはお湯を注いでハチミツを入れれば…ほぼ、ホットミルクになります!

これを使えば、以前紹介したミルクシチューも作れるかも知れません。いろいろ使えそうです。オススメです!



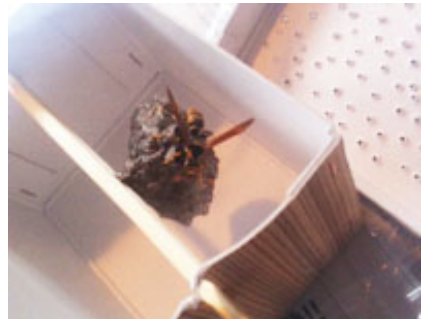
編集後記 -----

まだしばらく私のアシナガバチ熱は続くようです(笑)。

先月、「仕事で山形県に来たので」と、神奈川県的女性がわざわざ足を運んでくださいました。そして、「安藤さんのアシナガバチ移住の動画を、ネットで何回も見てイメージトレーニングをして、ついうちの玄関先に作られたアシナガバチを引っ越しさせることができました! お礼を言いたくて来ました」と思いがけず嬉しいお言葉をいただきました。

多くの人にやってもらいたくて、そのノウハウを動画投稿していたのです。もちろん刺されるリスクがあることも伝わる内容にあります。大きな励みになる出来事でした。

実は、6月にも山形市の女性がやはりそのノウハウに基づき玄関先のアシナガを巣ごと確保し「無農薬畑に役立ててください」と親子で届けて下さったことがありました。



割り箸で巣を固定して届けて下さいました

さらに8月には、親子で体験にいらした尾花沢市のお母さんが、やはり玄関先のアシナガバチを自作の箱に入れて上手に引っ越しなさいました。

なんだかナウシカみたいな女性が増えていくようで嬉しくなりました。きっと未来は明るいです。

通信「ハチ蜜の森から」のご購読について

定期購読を希望される方は、82円切手を5枚ほどお送り下さい。5号分(4~5年)お送りいたします。購読期限は、お送りした時の封筒の住所下に、たとえば36-40と号数を明記しています。